

# 山 口 新 聞

平成 27 年 11 月 11 日 (水)

## 農村環境の維持、活動へ

### 研修会に地域リーダーら 860 人

本年度の農村環境の未来を考える研修会が10日、山口市吉敷下東の県総合保健会館であった。県内各地で農地・農業用水などの資源の保全管理や地域コミュニティの維持など取り組む

活動組織のリーダーら約860人が参加し、将来に向けた活動のあり方を考えた。県日本型直接支払推進協議会主催。

吹田幌会長は「農村地域は過疎化、高齢化、後継者不足が進行し、農業・農村が有する多面的機能の維持が困難になっている。地域ぐるみの活動を支援する多面的機能支払交付金事業を活用して、積極的な取り組みを行ってほしい」とあいさつ。本年度の同協議会会長賞表彰で、下関市豊浦地域広域協定運営委員会を表彰した。

事例発表では、昨年度の多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長最優秀賞を受賞した山口氏阿東嘉年の阿武川源流保全会の上田法

生代表が、阿武川源流の「水出の泉」の親水公園化など資源向上活動、一昨年7月の豪雨災害からの復旧

活動などを報告した。基調講演は、新潟県見附市農林創生課農政企画係長の椿一雅さんが、多面的機能支払交付金を活用した農業集落の広域化組織づくりを実現させた体験談を語った。

同研修会は、農水省の多面的機能支払交付金事業の

一つ。同交付金は農業・農村の多面的機能を維持・発展させる共同活動に支援で地域資源の適切な保全管理を進め、農地集積という構造改革を後押しする。



約860人の農村・農業関係者が参加した研修会  
=10日、山口市